

事務事業 No./名称	<input checked="" type="checkbox"/> サービス部門 教育-24 教育振興助成事業(小学校) <input type="checkbox"/> 支援部門						
主管課	学務課	関連課	生活福祉課・青少年課				
分野名	学校教育						
目標 (目標値)	生徒の教育機会の支援拡充						
人口等のデータ	データ区分	25年度	24年度	23年度	備考		
	人口	177,895人	177,224人	177,204人	・各年4月1日 (住民基本台帳) ・対象者数は就学援助 支給対象者数		
	世帯数	80,295世帯	79,669世帯	79,217世帯			
	事業の対象者数	989人	958人	892人			
事業費(千円)	65,448	63,116	58,712				
運営資源状況	(国・県)	1,198	1,206	946			
	(負担金等)						
	(一般財源)	64,250	61,910	57,766			
	人員配置数	0.9人	0.9人	0.9人			
	人件費(千円)	6,963	7,194	7,877			
	協働のパートナー						
	事務事業 運営経費	総事業費(千円)	72,411	70,310	66,589		
	市民1人当りの経費(円)	407	397	376			
	対象者1人当りの経費(円)	73,216	73,392	74,651			
ベンチマーク(県内 外自治体や民間団体 との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終年度(27年度)
所得捕捉の適正化	◎	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

中事業に含まれる小事業の方向性(⇒個別事業の概要は裏面) (千円)

H25小事業名	H25決算値	H26小事業名	H26予算額	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止			
教育振興助成事業	65,448	小学校教育振興助成事業	76,107	今後の方向性	A	理由・手法	就学援助システムの導入により、事務の効率化を図る。
				今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	

中事業の評価(事務事業の課題、取組状況、今後の方向性)

H25年度の課題	・ことばの教室通級費については、ことばの教室設置校校長口座へ振り込み、各校長が保護者に支給を行っていたが、学校の事務軽減を図るため、市が直接保護者口座へ振り込むよう支給方法の変更を行うこととした。この支給方法変更について、ことばの教室設置校の校長と、支払い事務や保護者への説明方法等を具体的に検討し、申請書の整備や事務フローを作成し事務を実施する必要がある。 ・取扱件数が年々増加し、それに伴う事務処理量も増加している現状では、事務の効率化を図る等の改善を行い事務量の軽減が必要となっている。										
課題解決のための取組	・ことばの教室通級費の支給方法について、県との協議や近隣市の状況調査を行った上で、ことばの教室設置校の校長と支払事務や保護者への説明方法等の説明方法を具体的に検討し、申請書の整備や事務フローを作成し、平成25年度から直接保護者口座に振り込むこととし、学校における事務の軽減を図った。 ・就学援助システムの導入が決まり、契約に向けて必要な機能等についての検討を行った。					取組の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 未解決				
未解決の課題	事務処理の効率化について、平成27年5月に就学援助システムの本稼働が決まり、今後事務手続き等の見直しや検討が必要である。また、その結果について、学校関係者への周知を図りながら、より一層の協力体制を構築する必要がある。										
中事業の評価	適切=○要改善=△(2面「評価の視点」を参照)		➡	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○
今後の方向性 (課題解決に向けた取組 ・H26予算への反映)	・各市の実施状況なども参考にしながら、より効率的な事務処理の構築を行う。また、学校関係者との打合せ等を実施し、連携を深めることにより支給方法などの変更や利用者への利便向上やきめ細やかな周知を図っていく。 ・取扱件数の増加が見込まれる中、平成27年5月に就学援助システムの本稼働が決まったことにより、事務手続き等の見直しや具体的な検討を行い事務処理の軽減を図る必要がある。							A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止 ➡ A			
※口事業完了											

評価者名 学務課担当課長 廣川 智久

(2面) 小事業・個別事業の評価

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

(単位:千円)

小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
教育振興助成事業	要保護及び準要保護児童に対して必要な扶助を行う。 特別支援学級・ことばの教室等に就学する児童に対して必要な扶助を行う。				○	○	○	○	
	主な個別事業	タイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		147	要保護及び準要保護児童扶助費	68,116	62,673	①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
		147	特別支援教育就学奨励費	4,189	2,775	○	○	○	○
※ <input type="checkbox"/>	事業完了								
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
	主な個別事業	タイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
						①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
	※ <input type="checkbox"/>	事業完了							
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
	主な個別事業	タイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
						①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
	※ <input type="checkbox"/>	事業完了							
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
	主な個別事業	タイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
						①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
	※ <input type="checkbox"/>	事業完了							
小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
	主な個別事業	タイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
						①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
	※ <input type="checkbox"/>	事業完了							